種名	コ　ク　チ　バ　ス Micropterus dolomieu
分類	サンフィシュ科オオクチバス属
俗称	
形態的な特徴	オオクチバスとの識別点は、1)背びれ最長棘の長さと最短棘の長さの比は2倍以下、2)成魚でも上あごの後端が眼の後縁よりも後にならない、3)体色は黄褐色で十数本の背～腹方向の暗色横帯。
分布	原産国は北アメリカの外来種で、1925 年に神奈川県芦ノ湖へ移入されたのを初め、日本各地の湖沼にスポーツフィッシングのために移入された。
繁殖行動	。産卵期は5～7月で、オスが産卵床を作って卵および仔魚を保護する。その後1年で全長 15cm、2年で22cm 程度に達し、成熟すると考えられる。
生息場所	オオクチバスに比べて流水域に生息することが多いとされてている。そのため、これまでオオクチバスがあまり侵入していなかった河川にも定着して生態系を撹乱する可能性があり、警戒が必要である。しかし、日本での生態は未だ不明な点が多く、実態の解明が早急の課題である。
食性	本種は食性は主に魚類と甲殻類である。
生息環境への配慮事項	本種もオオクチバスと同様、ルアー釣りの好対象魚であることから、利用派と排除派が対立している。しかし、多くの自治体や漁業協同組合は駆除の姿勢を示しており、生息数削減を目的として遊漁の際の再放流を禁じたり、逆に他水域への拡散を防止するために再放流を推進するなど、水域ごとに対応が考えられている。栃木県中禅寺湖や山梨県本栖湖では、本種が確認された直後から、ヤス・水中銃・延縄・刺網などを駆使した駆除を行い、成果を上げている。こうした侵入初期における早期の徹底的な駆除が、有効な手段と考えられる。その他、本種の産卵に適した人工産卵床を設置するなどして、親魚を誘引して効果的な駆除を行うことも検討されている。
引用文献：外来種ハンドブックを改変	